

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I 「できるかな?」プロジェクト「パラリンピックの知識で競合に勝つぞう」
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを愛する心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【京田辺市立新小学校】

1 実践テーマ	【I・III・V】
2 実施対象者	京田辺市立新小学校 全校児童
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育） ② 行事名（ ） ③ その他（総合的な学習の時間・特別活動） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・「できるかな?」プロジェクトで、休み時間に目標を持ち、記録に挑戦する。 ・パラリンピックの意義や歴史について知り、3年後の東京実施に向けて自分なりの考えを持つ。 ・パラリンピアンとの出会いの中で、運動への関心を高め、日々の努力の積み重ねの大切さを考える。
5 取組内容	1 オリパラ推進校プロジェクト組織確立【6月】 (1) 研究内容整理 (2) 研究計画作成 2 「できるかな?」プロジェクト（毎月3種目）で挑戦 【4月】 ・ロープハトンスロー・グーパー・立ち幅跳び 【5月】 ・ブリッジ・朝ランニング・のぼり棒 【6月】 ・鉄棒さかあがり・人間オセロ・水中顔つけ 【7月】 ・手押しすもう ・フロントブリッジ ・馬跳び 【9月】 ・朝ランニング ・薪エアロピクス ・ラジオ体操 【10月】 *4月～9月の合格できなかった種目に再挑戦 【11月・12月】 ・ハービージャンプ・リフティング・短なわとび 【1月・2月】 ・大縄クラス1周・二人縄跳び・キャッチボール 3 パラリンピックの意義・歴史等についての調べ学習 (1) 5年総合的な学習の時間で調べ学習【9月】 (2) パラリンピックコーナーに展示【10月～】 (3) 全校朝礼で発表会【2月】



	4 パラリンピアンとの出会い【11月8日】 堀越 信司氏（2016年 リオデジャネイロパラリンピック フルマラソン 4位） (1) 講演会（3年児童～6年児童対象） (2) 実技指導・質疑応答（6年児童対象） (3) 交流給食（6年児童対象）
6 主な成果	1 「できるかな?」プロジェクトは、体育委員会が特製のシールを作り目標達成者に配付したことで、児童の励みになり、目標達成者の増加につながった。また、「できるかなプロジェクト」を保護者向け広報誌「体力アップ! 薪っ子」に掲載し家庭でも取り組めるように啓発できた。 2 リオデジャネイロパラリンピックと関連させ、国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用したことで、児童の興味・関心が高まり、パラリンピックの意義・歴史等について深く調べることができた。 3 パラリンピアン 堀越 信司氏が、京田辺市に在住されていることで、児童は身近なアスリートとして捉え、夢の実現について考えることができた。児童の感想として、 (1) パラリンピックの時、世界で4位なのでとてもすごいのに堀越選手は、まだ上に3人いるから悔しいと言っていて、夢はまだあるんだなと思いました。堀越選手の資料には、『1つ1つできることをコツコツ積み重ねて、大きな夢をつかんだ』と書いてあって、私にも小さな夢はたくさんあるので、コツコツがんばってやっていこうと思いました。 給食の時間に、班のみんなと堀越選手と写真をとれて、とてもうれしかったです。 (2) 堀越選手の講演の後、走る時の腕の振りは大切だということを教えてもらいました。また、裏技も教えてもらいました。足をこすってみると、ける力が一時的に上がると聞いて「そうなんだ!」と思ってびっくりしました。また、手を伸ばしてみると、重心がぶれなくて驚きました。そして一緒に給食を食べた時に、しゃべっていると、とても面白い人だなと思いました。これからは、堀越信司さんを応援したいです。そして、もうすぐあるマラソン大会をがんばろうと思いました。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	1 昨年度は、オリンピック、今年度はパラリンピックに特化させて取り組んだことで、意欲・関心の高まりと内容理解が深まった。 2 府小学校教育研究会体育科研究協力校としての取組と関連させたことにより、運動に対する意欲と体力・運動能力を高められた児童が増加した。 3 「できるかな?」プロジェクトは、昨年度から実施しており、今年度は4月から年間計画に位置付けて取り組めた。
8 主な課題等	オリンピック、パラリンピアン講師招聘
9 来年度以降の実施予定	重点研究保健体育科と関連させ、全校的な取組として継続・発展させる。

